

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

聖隷こども園こうのとり豊田

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

コメント

園長、主任は常に園全体に目を配り、理念に基づいた保育が展開されているか、保育士に問いかけ共に考え丁寧な保育が繰り広げられるよう励ましの声をかけ、職員一人一人の意欲と質の向上に繋がるよう努めていた。

生活や遊びの中で子どもの自主性や自発性が大切にされ、自己表現を盛んに行える保育を保育者が意識し実践していた。ゆるやかな担当制保育の実践がなされ、一人ひとりに保育者のまなざしが向けられ、家庭的な雰囲気であり常に受容的な言葉で関わりをしていくことを意識され、子どもが安心して表現していけるようにしていた。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

コメント

保育室で何をして遊ぶか自分で決める、園庭で何をして遊ぶか自分で決める、散歩に行きたいか園に残って好きな遊びをするか自分で決める、食事のタイミングや座る席食べる量を自分で決めるなど、保育者が子どもの意思や考えに耳を傾け、子ども自身が一日の様々な場面で自己決定できるよう保育が整えられている。子どもが自分で決定する場面が多く、子どもの人権を大切にした保育、子どもたちが意思表示し自己決定できる保育が展開されていた。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

コメント

園長管理の基、個人情報に関する重要書類、緊急連絡表、記録などで職員が使用するパソコンやタブレットなどの端末類など、個人が特定できるような情報や記録などは鍵のかかる場所にて保管管理していた。また、園内研修の計画に組み入れ個人情報、法令順守の研修を職員に実施している。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

コメント

入園時、保護者等の懇談会実施の際には必要に応じて説明を行っている。また、園だよりなどでも保護者へ向けて情報発信を行っている。その他、意見箱の設置。苦情などの受付、解決の窓口の周知については園内にて掲示案内をしている。保護者よりいただいたご意見に関しては、具体的に職員会議などの場において問題解決、改善についての話し合いを重ねる場を設けている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

コメント

ICTシステムを活用し、家庭からの子どもの健康に関する情報提供と合わせ、子どもの健康観察を行っていた。園内は清潔に保たれ、子どもが使用する玩具や物に関して、定期的な消毒がされている。また、職員は感染症マニュアルを把握することで自身が感染源にならないことや、保育室に消毒液を設置するなどして感染予防に努めていた。保健部会の開催、複数ある聖隷のこども園保育園に在籍する看護師より、細やかな自園に関する感染状況等の情報共有を経て対策強化を行っている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

コメント

年間計画に、いつ、何をなすべきか子どもの安全確保に必要な取り組みを盛り込み実践的な訓練や研修の実施をしている。リスクの高い場面(午睡、食事、水遊び、園外活動)、緊急的な対応が必要な場面(災害、不審者侵入)など、資料を基に留意点を改めて確認し、マニュアルの見直しなどを行っている。事故発生防止に向けた環境づくりには職員間のコミュニケーション、情報共有、事故予防のための実践的な研修を行うなど組織的に取り組んでいる。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

コメント

認定こども園の認定基準により国から示された職員配置を満たしている。職員のシフト管理、日々の職員配置に関しては主幹保育教諭が状況に応じ欠員が出ないように配慮している。設備に関しては、点検が行われ子どもが安全に使用できるよう配慮されている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

玄関、絵本コーナー、階段などの共有スペースには季節の花が飾られ定期的に手入れされ清潔感が感じられた。保育室には、子どもが散歩先で拾ってきた松ぼっくりなどの自然物が持ち込まれ、保育者管理のもと飾られていた。幼児クラスの絵本コーナーでは、絵本が雑然と入れられており子どもが手に取って選ぶには難しさを感じさせた。改善されたほうが良いと感じた。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

保育室は遊びこめる時間が持てるようコーナーを作り、空間の配置や発達に合わせて玩具の見直しがされていた。様々な教材や玩具が子どもの手の届く位置に配置されるなど工夫が感じられた。

環境設定においては、モンテッソーリについての勉強会を持ち年齢に応じて自ら選択し遊びむことができるよう工夫されていると伺った。

乳児、幼児共に、職員の必要最低限の声掛けと適切な見守りを通して子どもたち一人ひとりが大切にされていることが感じられるよう配慮されていたことが印象的であり、大きな声が飛び交う騒がし環境でなく穏やかな時間が流れていた。

昼食時、幼児はランチタイムを導入されていたが、食具の持ち方や姿勢などを気に掛ける職員の姿がなく、今後改善されると良いと感じた。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・ 一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・ 共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

コメント

乳児クラスでは、ゆるやかな育児担当制保育を導入され食事や排せつ、睡眠などの部分を少人数のグループをつくり一人の保育者が担当していた。一日を通し一斉に何かを進めることはなく、子どもたちは安心した表情をのぞかせ好きな人と、好きな場所またはおもちゃで遊ぶ姿があった。職員の適切な見守りを通して自分が大切にされていることが感じられ、一人ひとりが大切にされた家庭的な温かい雰囲気であった。単に長い時間を一緒に大勢で過ごすのではなく、発達に応じ環境を整え、遊びを見守り、必要な時に手助けする援助を継続的にされていることが分かった。

幼児クラスでは、子どもがその日、散歩へ行くか行かないかなど、その日の活動を自分が自分で選択できるような配慮がされており、遊びの空間では、積み木やラキューなどの構成遊び、ままごとや、廃材遊びなどのコーナーが設けられ、子どもが自由に選択して遊べるよう工夫されていた。4.5 歳時はサークルタイムを設けることで友達の発言を聞き、理解したり、違う意見を述べたりと、自分の意思を言葉にして発言することを大切にする時間があった。

歳時別目標を軸に、クラスの指導計画を考え保育活動を実践していることが分かった。

【全体を通して】

コメント

子どもが主体となって活動できる保育、子どもの「やってみたい」に丁寧に寄り添えるよう、園全体が協力して子どもを見守る体制が築かれていた。乳幼児間では保育フロアが分かれており協力体制が厳しい園も多い中、複数担任数の多い乳児クラスが子どもの午睡時間を有効活用し、担任数の少ない幼児クラスに声をかけ連携して協力し合いお互いを気にかけて助け合うことが自然と成され、チーム力を感じさせられた。子どもとともに作る保育を実践され、現場からの困ったを常に把握し安心できる言葉がけをされている園長、主任の姿から、現場の職員からは安心できる環境で働くことができていると回答が多かったことが印象的でした。

評価日 2023年 11月 8日

評価者 園名 聖隷こども園めぐみ

役職 保育主幹教諭

氏名 高木智美